

3. 通期の業績見通し

当中間期においては、売上高は計画通りでしたが、営業利益は計画を大きく上回りました。これは、携帯電話基地局や光伝送システムなどの需要増による増収効果やその他の海外ビジネスの伸張に加えて、国内ソリューション / S I 事業で不採算プロジェクトの発生抑止やものづくり強化によるコストダウン推進、営業費用の効率化などグループを挙げての増益への取り組みが、国内 I T 市場での需要の伸び悩みや競争激化による影響を上回ったことによるものです。

通期の業績予想は 10 月 18 日に発表した通りです。第 3 四半期では、当面の国内 I T 市場の環境を踏まえ、売上高は 1 兆 1, 100 億円と前年に比べ増収を見込むものの営業利益はブレークイーブンにとどまる見込みです。通期では、第 4 四半期に売上及び利益が集中する当社のビジネス構造に対し、国内 I T 市場が引き続き不透明な状況にあると見込まれることから、営業利益は従来通りの 1, 750 億円といたします。経常利益は、年金の制度改訂に伴う積立不足償却額の減少を織り込み 1, 100 億円といたします。当期純利益については、法人税等に増減があり従来通りの 500 億円といたします。なお、I F R S (国際財務報告基準) のグループ内での適用推進に伴う影響は前年比で 71 億円の増益要因の見込みです。

通期での計画の確実な達成に向けて、昨年実施した営業と S E を一体化した組織をより効率的で最適なものとなるよう強化し、フィールド・イノベーションの実現によりお客様に優れたテクノロジーをベースとしたソリューションを提供し続けてまいります。また、最先端のテクノロジーを基盤にコスト効率に徹したグローバルな競争力を有する製品の販売を推し進める一方、引き続き事業の採算性向上を図り、併せて資産等の効率化を徹底的に追求し、収益力の強化に努めてまいります。

(単位：億円)

	2005 年度 (予想)	2004 年度 (実績)	前年比
売 上 高	48,000	47,627	372
営 業 利 益	1,750	1,601	148
経 常 利 益	1,100	890	209
当 期 純 利 益	500	319	180

< 2005 年度の売上高及び営業利益の四半期別内訳 >

(単位：億円)

	第 1 四半期 (実績)	第 2 四半期 (実績)	第 3 四半期 (予想)	第 4 四半期 (予想)
売 上 高	10,263	11,659	11,100	14,976
営 業 利 益	148	327	0	1,274

この資料に記載した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により、実際の結果・業績または事象と異なることがあります。実際の結果・業績または事象に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます (但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません)。

- ・ 主要市場における景気動向 (特に日本、北米、欧州)
- ・ ハイテク市場における変動性 (特に半導体、パソコン、携帯電話など)
- ・ 為替動向、金利変動
- ・ 資本市場の動向
- ・ 価格競争の激化
- ・ 技術開発競争による市場ポジションの変化
- ・ 部品調達環境の変化
- ・ 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- ・ 不採算プロジェクト発生の可能性
- ・ 会計方針の変更